

こんびらシンギュラリティー

「こんびら船々追風に帆かけてひらシュツ・シュツ・シュエ廻れば四国讃州那阿の郡こんびら大権現……」
遠州森の石松が親分次郎長の代参をしたのが金刀比羅宮で神の守り神として知られていますが、このこんびらさんが気象と関係があるというのですから愉快です。当地方ではこんびらさんのお祭り（10月9・10・11日）がすまないと秋晴れにならないと言われていました。つまりこんびらさまの例祭は秋霖末期に当るわけで、顕著なシ



ンギュラリティーが認められます。「こんびらシンギュラリティー」と我流に名付けてみました。

屋島一源平の古戦場

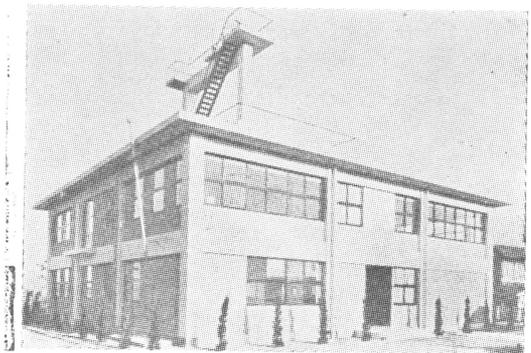
写真で御覧のように屋根のような岬が屋島です。寿永の昔わずか150騎の坂東武者に蹴落された平家の公達の悲歌が数々の遺跡に秘められています。

小豆島—24の瞳

24の瞳で有名になった小豆島は紅葉の美しい小島です

メソ都市・高松

青畳をしいたような瀬の海を字野港から海路1時間・連絡船ですべるように着いたところが四国の表玄関高松市です。気候は温和で、物産は豊富、人情極めてこまやかです。しかも官庁・会社の出店は大低ありますので何かと便利です。非常に暮し良いので転勤してきた人が住み心番の良いままつい居着いてしまう例も少なくありません。しかし、これといった産業がなく万事メソ的であるのは一寸さびしい気がします。



高松地方気象台新庁舎成る——悩みの種は霧——

当台は1941年設置以来各課バラバラの間借り生活をしてきましたが、1960年3月写真のような明るい感じの新庁舎が全職員水入らずで和気霽々と仕事をしています。ただこのあたりの海上は霧の名所？で霧予報は私達の悩みの種の一つです。

(松岡隆)